

歴史・用語・理念・生命倫理部会 議事録

日時；2026/3/17

Web 会議出席委員；根津敦夫、眞鍋裕紀子、辻 恵、金子恵美、船戸正久、山本重則、武藤茜、橋本 悟、久保田雅也

議題

1. 学会用語集の作成について
2. 生命倫理・新生児医療の意思決定に関する議論

議事内容

■議題 1：学会用語集の作成について

1) 用語の選定基準について

- 当学会活動および学会誌への投稿にとって有用な用語を選定し、用語集を作成した。

2) 選定された用語の個々の精査について

- 福祉用語の英訳は、日本法令外国語訳データベースシステムに準じた。
- 医療的ケアの英語表記について、Medical complexity としたが、medical care, medical assistance では海外の研究者に通じないと考えた。医療職のみならず、介護職も行えるケアとの注釈が必要。
- 運動発達遅滞について、最近では運動発達症 Motor developmental disorder と直した方がよい。
- 介護者の英語表記について、caregiver と carer のどちらでもよい。
- 言語発達遅滞についても、言語発達症 Speech developmental disorder にするかは、今後の検討課題。
- 肢体不自由児という用語は一応残すこととする。
- 重症心身障害児者の英語表記について、児は children、者は adults、児者は person とする。
- 超・準超重症児の英語表記について、準を medium medical complexity、超は extreme medical complexity にした。これは海外の文献やアメリカの小児科学会の論文を参考にした。その方が海外の研究者にも伝わりやすい。
- 生活支援という用語は採用すべきか。介護士、援助員、療育士、などの類似語もあり、要検討とする。
- 知的障害は、知的発達症ではないか？ 症候と福祉で分ける。
- 療育の英語表記はないので、そのまま表記でいろいろ注釈を入れるということになるのでは。
- 脳性麻痺の分類の中で、ディスクネティックを追加する。
- 不顕性誤嚥はよく使い加える。

- 拡大代替コミュニケーションを追加する

■議題4：生命倫理・新生児医療の意思決定に関する議論

- 石井先生から案内があった生命倫理の新生児等の医療選択等のシンポジウムについて、法的解釈、医療資源の問題など、いろんな要素が入ってきている。新生児医療の意思決定を、どういう思想で明確にするのかは簡単ではない。経験のない判断に、追い詰められる人がたくさんいると思う。
- 新生児医療では、侵襲的治療をやり続けるのではなく、積極的治療、制御的治療、緩和的治療という段階が考えられている。医療選択に共同決定の流れがある。
- 非侵襲的着床前診断が、民間クリニックレベルで広がっている。
- 今後、倫理委員会と共同で検討を行う。